

あとがき

本校の教育目標「学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる」のもと、学校研究のテーマを「学びがつながる授業づくり」と掲げ、これまで行ってきた「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの成果と課題を基に「学びのつながり」をキーワードとした本研究の取り組みは、3年計画のまとめの年である3年目となります。今年度も聴覚障がい教育部と知的障がい教育部の二つの教育部が、それぞれの障がい特性を踏まえて同じテーマで取り組みました。

聴覚障がい教育部は、幼児児童生徒の実態や言葉に関する課題を的確に把握し、それに対する指導者の適切な手だてをとった授業づくりの実践を積み上げてきました。また、指導者と幼児児童生徒のやりとりにおいて、指導者の言葉掛けが適切であったかを考えることができました。知的障がい教育部は、算数・数学科を中心に研究に、独自の「学習内容表」や実施記録等のツールを活用して、学びがつながる授業づくりの実践を積み上げてきました。また、年間指導計画の評価・改善をしながら、他教科等や日常生活との学びのつながりについて考えることができました。

さらに研究を進める上で、聴覚障がい教育部では、小グループでの普段の授業の動画視聴や「指導案の様式」の改善・活用、「言葉に関する職員研修」の実施を通して、言葉の課題や手だて、指導者の言葉掛けを明確にした授業づくりや幼児児童生徒の主体的な姿を大切にした授業づくり、指導者の指導力の向上に役立ちました。知的障がい教育部では、各学部で作成した参観シートや事後研シートなどを活用した話し合いを行い、目標や内容、教材、手だてがより明確になった指導の在り方を検討し、つながりのある指導計画を作成したことで、より「つながり」を意識した授業づくりを進めることができました。

幼児児童生徒の良さと個性を尊重しながら、一人一人の確かな学び、つながる学びを実現する、より良い授業づくりのために、各学部で授業研究を通して、意見交換や教材の見直しを行いました。授業の質的改善を図るためには、日ごろの授業を指導者が視点をもって振り返ることが何より大切であると考えます。そして振り返りで得られた、自分自身の授業づくりの課題に気づき、具体的に把握、改善していくことが重要であると考えます。

本研究の継続により、授業改善を効果的に進め、これからも、学習内容の積み重ね（縦のつながり）と他の学習場面や日常の場面への広がり（横のつながり）を目指して、幼児児童生徒一人一人が、学びを楽しめる状況づくりに取り組んでまいります。御指導、御助言をいただければ幸いです。

令和7年3月

山形県立酒田特別支援学校
教 頭 佐藤 秋久